

平成30(2018)年

8月1日

第207号 毎月発行

編集 公民館だより編集室
発行 西東京市公民館

毎月第4月曜日は休館日です

西東京市

公民館だより

今月号の内容

- 2面…青少年対象講座、サークル体験会、保育室プレ体験!! ほか
- 3面…駅前フェスタ2018&サークル体験フェア、利用者懇談会
- 4面…公民館登録の更新について

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
 田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

記憶を、新たに。 ～戦跡をたずねて～

終戦から73年。戦争中、西東京市域が空襲を受けたことを知っていますか?
 「西東京市公民館だより」は、折に触れ、この空襲について取り上げてきました。戦争の記憶を伝える戦争遺跡や慰霊碑などについても紹介したことがありますが、今号では、5つの戦争遺跡等を紹介します。
 ※併せて、関連記事もご覧ください。

- 2面「中島飛行機と西東京市の受けた空襲」
- 3面「平和を考える講座報告」

青面金剛庚申像

(泉町二丁目3番2号)

昭和20年4月2日のB29爆撃機による爆撃により、6腕のうち、向かって右2腕と左1腕を失いました。



幻の鉄道の跡

西武新宿線と青梅街道が交差するガードの西武柳沢駅寄りにある小さなガード

中島飛行機武蔵製作所で製造したエンジンを現谷戸町二丁目にあった試運転工場でテストするための運搬用につくられた軽便鉄道の跡です。



証言によると、昭和19年秋口に線路の敷設が始まり、10月頃に開通、昭和20年の終戦とともに撤去されたそうです。線路は鉄製の枕木にレールを溶接したはしご状の「軌框」といわれる簡易なもので、敷設も撤去も容易でした。



被爆した六体地藏菩薩立像

宝樹院(泉町二丁目7番25号)

昭和20(1945)年4月2日のB29爆撃機による爆撃により破壊され、地中に埋もれていました。戦後、住職が掘り起こして傷ついた体をコンクリートで補修し、地藏堂内に安置しました。1体の頭部は見つからなかったため、後から作られたものです。この日の空襲では時限爆弾が投下され、周辺の住民にも犠牲者が出ています。



模擬原子爆弾の着弾・爆発地 しじゅうから第二公園(柳沢一丁目12番地)



アメリカは、実戦訓練のために模擬原子爆弾を日本国内の49カ所に投下しました。昭和20年7月29日、その中の1発が、現在、しじゅうから第二公園がある場所に落ちました。当時、そこはじゃがいも畑で、農作業中の女性3人が亡くなり、11人が重軽傷を負いました。

模擬原子爆弾は、本物の原爆と同形・同重量(4.5トン)で、核物質ではなく高性能爆薬が詰められていました。この時、爆弾を落としたB29爆撃機(愛称「ボックスカー」)は、後に長崎に本物の原爆を投下した機です。

しじゅうから第二公園の看板には「模擬原子爆弾の着弾・爆発地」であることが表示されています。

都立武蔵野中央公園に新しく編入されたエリアの説明板

今年6月に開園した東側の拡張エリアには、中島飛行機武蔵製作所と空襲、戦後の跡地利用に関する大型の説明板が5枚、設置されています。

拡張エリアは、中島飛行機武蔵製作所・東工場があった所で、爆撃照準点に近接しています。ここには、2015年まで、当時、変電室だった鉄筋コンクリート造りの2階建ての建物が残されていました。

拡張エリアには、埋設物撤去工事の際、出土した東工場の地下道の床盤破片も展示されています。



【協力】渡部國夫氏(西東京に落とされた模擬原爆の記録を残す会会員、武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会会員)

【参考資料】『戦争のきずあと・むさしの』第64号(2018年6月19日、武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会発行)『じゃがいも畑へパンクン-西東京市にも落とされた模擬原子爆弾-』(2015年4月1日、西東京に落とされた模擬原爆の記録を残す会発行)『戦争の記憶を武蔵野にたずねて-武蔵野地域の戦争遺跡ガイド 増補版 初版5刷』(牛田守彦・高柳守久著、ぶんしん出版、2015年7月)



旧保谷市役所
昭和42(1967)年撮影
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵



保谷郵便局(現在の保谷町一丁目1番)
撮影:水口トミオ(保谷町在住)

写真で見る 旧保谷市役所 いまむかし
 旧保谷市役所は、昭和43(1968)年6月に現在の保谷庁舎に移転しました。(市制施行は昭和42年1月1日)

サークル訪問

創って演じて、りふれンジャー!
朗読劇の会 りふれ



今日は7人! 山崎先生と

「朗読劇の会 りふれ」は、平成27年度にひばりが丘公民館が実施した講座「朗読劇で心も身体もリフレッシュ!」から生まれたサークルです。講座の講師を務めた、演出家・俳優の山崎巖先生(いざのみこと)の指導のもと、第2・4土曜日の午後、ひばりが丘公民館で活動しています。メンバーは20代から70代までの朗読劇以外にも演劇、朗読、イラスト、音楽等の表現活動を行う多才な11人です。

取材日に稽古していたのは、11月公演の演目で、代表の橋口紀子さんが書き上げたオリジナル作品『僕のマリー』。思わぬ事態へと向かう、上高地へのバスツアーの物語です。朗読劇は台本を読み上げる点は朗読と同じですが、声で表現するだけでなく、視覚的效果で観客の想像力を助ける点が異なります。観客と一緒に旅をする気分になれるように計算して配置した椅子で車内を表したり、台本をカメラに見立てたり、

演者は「動き」とともに演じ、効果音も入ります。朗読劇の魅力は、「表現すること」でみんながつながり、共に創り上げ、できあがった時の喜びを分かち合えること、といえます。「役を演じることで自分でも知らなかった自分に出会えた」という声もありました。11月11日(日)、保谷こもれびホールで、「りふれ」が初めて主催する公演を行います。山崎先生の指導を受ける3団体も出演します。タイトルは「つながる つつまれる」。舞台って凄いです! ライブ感がたまらない!と感じていただけるよう、稽古に励んでいます。

声の「公民館だより」をお届けしています。知り合いで希望される方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(電話042-421-4545)へお問い合わせください。